

平成 26 年 1 月 29 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

### 平成 26 年 3 月期 第 3 四半期決算、および通期業績予想の修正について ～利息返還損失引当金の追加繰入の影響により連結純利益は減益～

当行の、平成 26 年 3 月期第 3 四半期決算は、コンシューマーファイナンス子会社において利息返還損失引当金 136 億円の追加繰入を実施したことから、連結四半期純利益 277 億円、同キャッシュベース<sup>1</sup> 四半期純利益 342 億円となり、前年同期比減益となりました。なお、単体四半期純利益については、218 億円となり、前年同期比増益となりました。

利息返還損失引当金については、シンキと新生フィナンシャルにおける近時の利息返還動向に基づき、将来の過払負担をカバーするために必要となる金額を再計算した結果、今般、追加繰入を実施することとしたものです。

上記を踏まえ、平成 25 年 5 月 8 日に公表いたしました平成 26 年 3 月期通期業績予想を、以下の通り、修正いたします。

- 連結当期純利益予想は 480 億円から 370 億円に下方修正
- キャッシュベース<sup>1</sup> 連結当期純利益予想は 560 億円から 450 億円に下方修正
- 今回新たに通期の連結経常利益を 410 億円の見通しとします
- 単体実質業務純益予想は、注力分野への経営資源の投入により経費が増加する一方、業務粗利益の進捗の遅れから、362 億円から 260 億円に下方修正
- 単体当期純利益予想は、第 3 四半期までの株式関連損益の改善に加え、与信関連費用の前年同期比大幅な減少が見込まれることから、260 億円から 340 億円に上方修正
- 期末配当予想 1 円 00 銭につきましては修正いたしません

当行では、引き続き、注力分野へ経営資源を投入することで、資産の積み上げ、業務粗利益の拡大を図り、第二次中期経営計画達成に向けて、新生銀行グループ一丸となって取り組んでまいります。

#### 平成 26 年 3 月期 第 3 四半期 損益の状況(連結)

(単位: 億円)

	平成26年3月期 第3四半期(9か月)	平成25年3月期 第3四半期(9か月)	増減率
業務粗利益	1,521	1,503	1.2%
経費	994	956	4.0%
与信関連費用	6	48	△86.7%
利息返還損失引当金繰入額	136	—	
四半期純利益	277	378	△26.7%
キャッシュベース <sup>1</sup> 四半期純利益	342	449	△23.9%

#### 当期の連結業績予想数値の修正(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(単位: 億円)

	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	キャッシュベース <sup>1</sup> 当期純利益
前回発表見通し(A)(平成25年5月8日公表)	—	480	18円08銭	560
今回発表見通し(B)	410	370	13円94銭	450
増減額 (B-A)	—	△110	△4円14銭	△110
増減率 (%)	—	△22.9	△22.9	△19.6
(ご参考) 前期実績(平成25年3月期)	544	510	19円24銭	604

#### 当期の単体業績予想数値の修正(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)(単位: 億円)

	実質業務純益	当期純利益
前回発表見通し(A)(平成25年5月8日公表)	362	260
今回発表見通し(B)	260	340
増減額 (B-A)	△102	80
増減率 (%)	△28.2	30.8
(ご参考) 前期実績(平成25年3月期)	259	246

<sup>1</sup> 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

平成 26 年 3 月期 第 3 四半期 業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成26年3月期 第3四半期(9か月)	平成25年3月期 第3四半期(9か月)	増減率
業務粗利益	1,521	1,503	1.2%
経費	994	956	4.0%
経費率	65.4%	63.6%	-
実質業務純益	526	546	△3.6%
与信関連費用	6	48	△86.7%
その他利益(△損失)	△150	△8	△1,654.9%
四半期純利益	277	378	△26.7%
キャッシュベース <sup>1</sup> 四半期純利益	342	449	△23.9%
1株当たり四半期純利益	10.43円	14.24円	△26.7%
同キャッシュベース <sup>1</sup>	12.89円	16.94円	△23.9%
ROE(年換算ベース)	5.8%	8.6%	-
キャッシュベース <sup>1</sup> ROE <sup>2</sup> (年換算ベース)	7.6%	11.2%	-
ROA(年換算ベース)	0.4%	0.6%	-
キャッシュベース <sup>1</sup> ROA(年換算ベース)	0.5%	0.7%	-
(単体)業務粗利益	689	711	△3.2%
(単体)経費	519	501	3.5%
(単体)実質業務純益	169	210	△19.2%
(単体)与信関連費用	△32	1	△2,461.5%
(単体)四半期純利益	218	179	21.9%
	平成25年12月末	平成25年3月末	増減率
総資産	91,542	90,293	1.4%
リスクアセット	53,708	58,477	△8.2%
1株当たり純資産	243.96円	233.65円	4.4%
自己資本比率(バーゼルII、F-IRB)	14.56%	12.24%	2.32ポイント
Tier I 比率	12.28%	10.41%	1.87ポイント
金融再生法上の開示不良債権比率(単体)	4.49%	5.32%	△0.83ポイント
金融再生法上の開示不良債権の保全率(単体) <sup>3</sup>	95.7%	95.9%	-

<sup>1</sup> 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

<sup>2</sup> 分母については、(期首の(自己資本-のれん-企業結合に伴う無形資産(繰延税金負債控除後))+(期末の同金額))/2として計算

<sup>3</sup> 金融再生法上の開示不良債権の保全率 = 貸倒引当金および担保・保証等による保全額の合計 / 開示不良債権額

業績

- 業務粗利益は、前年同期の 1,503 億円から増加し、当第 3 四半期は 1,521 億円。
- 経費は、注力分野に経営資源の投入を図り、前年同期の 956 億円から増加し、当第 3 四半期は 994 億円。
- 与信関連費用は、不良債権処理に伴う貸倒引当金取崩益の計上や、資産の質の良化により前年同期の 48 億円からさらに減少し、当第 3 四半期は 6 億円。
- その他損失は、消費者金融ファイナンス子会社において利息返還損失引当金を 136 億円追加繰入したことから、前年同期の 8 億円の損失から大幅に増加し、当第 3 四半期は 150 億円の損失。
- 連結四半期純利益は、利息返還損失引当金の追加繰入の影響により、前年同期の 378 億円から減少し、当第 3 四半期は 277 億円。
- 単体四半期純利益は、前年同期の 179 億円から増益となり、218 億円。
- 総資産は、平成 25 年 3 月末の 9 兆 293 億円から 1,248 億円増加し、9 兆 1,542 億円。

資本および資産の質

- 自己資本比率は、内部留保の着実な積上げや不良債権の削減により、連結自己資本比率 14.56%、Tier I 比率 12.28%と、平成 25 年 3 月末比で、それぞれ 2.32 ポイント、1.87 ポイントの改善。
- 不良債権比率は、不良債権残高を平成 25 年 3 月末の 2,426 億円から 1,913 億円に削減した結果、平成 25 年 3 月末の 5.32%から平成 25 年 12 月末の 4.49%に 0.83 ポイント低下。  
また、保全率も 95.7%と引き続き高い水準を維持。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: [http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial\\_info/quarterly\\_results/index.html](http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html)

以上

お問い合わせ先

新生銀行 IR・広報部

大高、江口

Tel.03-6880-8303